**大阪府立障がい者自立センター退所者アンケート調査結果**

# Ⅰ．調査概要

## １．調査対象：平成28年5月から平成30年3月末までに退所された方 132人

## ２．調査期間：平成28年5月1日～平成30年6月30日

## ３．回答率：62％（82人／132人）

※構成比は、小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはなりません。

※自由記述については、主要な意見を掲載しています。

# Ⅱ．調査結果

##  １．退所後のくらしについて

### （１）住まい

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 家族と同居 | 52人（ 63%） |  |
| 単身生活 | 12人（ 15%） |
| グループホーム | 7人（ 9%） |
| 高齢者向け住宅 | 7人（ 9%） |
| その他 | 4人（ 5%） |
| 合計 | 82人（100%） |

### （２）日中活動（複数回答可）

|  |  |
| --- | --- |
| 就労 | 15人（ 18%） |
| 学校（復学） | 3人（ 4%） |
| 障がい福祉サービス | 48人（ 59%） |
| 介護保険サービス | 27人（ 33%） |
| 家事・趣味等 | 26人（ 32%） |
| 合計 | 82人（100%） |

#### ◆（２）－１　日中活動のうち「就労」の内訳

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 復職 | 12人（ 80%） |  |
| 新規就労 | 1人（ 7%） |
| アルバイト | 1人（ 7%） |
| その他 | 1人（ 7%） |
| 合計 | 15人（100%） |

**◆（２）－２　日中活動のうち「障がい福祉サービス」の内訳**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 障がい者職業能力開発校 | 2人（ 4%） |  |
| 就労移行支援 | 14人（ 29%） |
| 就労継続支援A型 | 2人（ 4%） |
| 就労継続支援B型 | 20人（ 42%） |
| 生活介護 | 3人（ 6%） |
| 地域活動支援センター | 1人（ 2%） |
| その他 | 6人（ 13％） |
| 合計 | 48人（100%） |

### （３）自立センター利用前後の変化

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 変わった | 42人（ 51％） |  |
| あまり変わらない | 28人（ 34％） |
| 変わらない | 7人（ 9％） |
| 無回答 | 5人（ 6％） |
| 合計 | 82人（100％） |

＜「変わった」と回答した人の意見＞

○規則正しい生活ができるようになった。

○ある程度の家事や外出ができるようになった。

○歩行が安定し、杖で近辺外出できるようになった。

○公共交通機関を使って外出する機会が増えた。

○メモリーノートにこまめに書くようになった。

○自分の意志をしっかりまわりに伝えられるようになった。

○入所当時は、かなり時間をかけて１つのことをするのがやっとだったが、焦らずにやれば、ほぼミスなく２つくらいのことができるようになった。

## ２．自立センターについて

### （１）自立センターを利用してどのように思われましたか？

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 充分満足 | 16人（ 20％） |  |
| おおむね満足 | 45人（ 55％） |
| どちらともいえない | 10人（ 12％） |
| やや不満 | 3人（ 4％） |
| 不満 | 6人（ 7％） |
| 無回答 | 2人（ 2％） |
| 合計 | 82人（100％） |

＜利用者の感想（不満な点）＞

○施設内は清潔にしてほしい。

○空調をもう少し効かせてほしい。

○自主トレができるよう、講堂を開放してほしい。

○リハビリのプログラムをもっと増やしてほしい。

○プログラムが自分に合わず、ただ座っているだけと感じることがたまにあった。

○自己活動の時間が多く、もっと個別の活動を増やしてほしかった。

### （２）参加してよかったプログラムはありましたか？

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| あった | 67人（ 82％） |  |
| どちらともいえない | 11人（ 13％） |
| なかった | 3人（ 4％） |
| 無回答 | 1人（ 1％） |
| 合計 | 82人（100％） |

◆参加してよかったプログラム（複数回答）

※各プログラムの内容については、p.13～15をご覧ください。

　どのプログラムを受講するかは、利用者によって異なります。

### （３）職員の接し方や態度は適切でしたか？

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 大変良かった | 35人（ 43％） |  |
| おおむね良かった | 32人（ 39％） |
| どちらともいえない | 8人（ 10％） |
| やや良くなかった | 1人（ 1％） |
| 良くなかった | 2人（ 2％） |
| 無回答 | 4人（　5％） |
| 合計 | 82人（100％） |

＜良かった点＞

○いつも元気よく受け答えしてくれた。

○入所直後に顔と名前を覚えてくれた。

○言葉遣いが丁寧だった。

○職員のみんなが優しく、心が落ち着く。

○話をしっかり最後まで聞いてもらえた。

○個々に応じた対応ができていた。

○わからないことを質問すれば、的確に返答してくれ、助かった。

○私の苦手なことや不得意なことを見つけ、スムーズに行えるよう、サポートしてくれた。

○フレンドリーでありながら、きちんと敬語を使っており、とても感じがよかった。

○障がいを持った自分たちに対し、同じ目線で、年齢など関係なく接してくれた。

○いいことをするといいと言い、間違ったことをすると、こうすればいいと言ってくれる。常に私の事を思って接してくれた。

○退所後の生活を考えてくれた。

＜良くなかった点＞

○職員が少ない。

○入所者が多すぎて対応しきれていないことがあるように思えた。

○担当職員が出張などで忙しく、あまり話ができない。

○ため息をつく職員がいる。

○人のプライベートなことを、みんなの前で聞いている職員がいた。

○意見箱に出した意見について、回答が明確ではなかった。

○個室を開ける時のマナーに問題がある職員がいると思う。

○職員のスキルに差異があり、同じプログラムでも、担当職員によって、成果に差が出ていると思う。

### （４）自立センターを退所する時に不安はなかったですか？

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| あった | 34人（ 41％） |  |
| なかった | 37人（ 45％） |
| 無回答 | 11人（ 13％） |
| 合計 | 82人（100％） |

＜「不安があった」と回答した人の意見＞

○リハビリが満足に受けられるのか。

○復職できるのか。

○仕事がどれだけできるのか。職場復帰した際、以前に自分がしていたことがどのくらいできるのか。

○守られた空間から外に出る事にすごく不安を感じる。

○新しい場所でうまくやっていけるかどうか、心配になった。

○時間通りにしていたことがなくなるので、退所後だらけるのがすごく心配だった。

○自立センターの職員は、自分のできること・できないことを適切に理解して接してくれるが、家族はそれほど理解できていないし、その微妙な違いを家族に説明できない。

○自分が家族に迷惑をかけないか心配。

## ３．これからの生活について

### （１）これからやってみたいことは何ですか？

○自立した生活をしたい。 　○仕事に就きたい。　○復職したい。

○大学を卒業したい。　○杖なしで歩きたい。　○歩いて旅行がしたい。

○散歩・ジョギング　○走ることやスポーツ　○パソコン（ワード・エクセル）

○陶芸を教室等で継続してやってみたい。　○字幕で映画を見たい。

○買い物・料理など家事全般　○家族サービス　○自動車の運転

○兄弟の経済的・精神的支援への恩返し　○昔の自分に戻りたい。

### （２）こんな支援があればいいのに、と思うことはありますか？

○通所リハビリ　○困ったときに相談できる人・場所

○本人が出かけなくても相談できるサービス

○移動に関して手助けしてもらえるサービス

○ガイドヘルパーを常時利用したい。

○交通機関のバリアフリーが進んでほしい。

○介護保険や障がい福祉などにとらわれず、サービスが利用できたらいい。

○どんなサービスがあるかわからない。

Ⅲ．調査結果のまとめ

当センターでは、開所した平成19年4月より、退所された方々を対象に利用満足度を把握するアンケート調査を実施してきました。今回は、平成28年5月から平成30年3月末までに退所された方々の回答を集計しました。

当センターの利用を経て、生活や暮らしぶりが「変わった」と回答した方は、前回より23ポイント低下しました。また、当センターの利用について「充分満足」「おおむね満足」と回答した方の割合はほぼ前回同様でしたが、「充分満足」が8ポイント低下し、「おおむね満足」が7ポイント上昇しています。提供しているプログラムについても、「良いプログラムがあった」と回答した方が6ポイント低下しており、全体的に前回よりも厳しい回答・ご意見をいただいた形となりました。

今回いただいた貴重なご意見を職員間で共有し、支援の質と利用満足度の向上に努めていきます。また、アンケートの質問紙についても、より回答しやすい形を目指し、随時見直しをしていきたいと思います。

最後に、アンケートにご協力をいただいた利用者・ご家族の皆様方に厚くお礼を申しあげます。本当にありがとうございました。

参考：プログラム内容

|  |  |
| --- | --- |
| プログラム名 | 内容や目的 |
| PT（理学療法）  | 身体機能の維持・向上、特に移動能力の向上をはかる訓練※対象は機能訓練の利用者のみ |
| OT（作業療法） | 日常生活動作能力、認知能力の向上をはかる訓練※通所利用者は、初期評価のみ実施 |
| ST（言語療法） | 失語症の利用者を対象に、コミュニケーション能力の向上をはかる訓練 |
| 歩行・車いす走行 | 歩行能力・車いす駆動能力・基礎体力の向上をはかる訓練 |
| 脳リハ | 机上課題を行う認知訓練 |
| 体操・脳トレ | 運動（移動）を伴う認知訓練 |
| 認知訓練 | 聞き取り・書き写し・発表等の課題を通して、集中力・記憶力やコミュニケーション能力の向上をはかる訓練 |
| 漢字・計算 | 漢字や計算のドリルに取り組み、脳の活性化をはかる |
| パソコン | タイピングや文章作成に取り組む |
| スポーツ | スポーツを通して、心身の健康の維持・向上をはかる |
| グループトレーニング | 更衣等、基礎的な日常生活動作の訓練を集団で行う |
| Sトレ（ソーシャル・トレーニング） | 共同作業やゲームを通して、活動性の向上やリフレッシュをはかる※平成29年11月～30年2月に実施 |
| メモリーノート | 予定管理能力の向上、記憶障がいや遂行機能障がいの代償手段の獲得をはかる |
| 言葉・交流 | 失語症の利用者同士の交流をはかる |
| 注意力と運動 | 注意障がいや半側空間無視の利用者に対し、安全に移動する能力の向上をはかる |
| グループワーク | 少人数のグループにて、高次脳機能障がいの理解・受容の促進や地域生活にむけた課題の整理をはかる |
| 趣味活動 | 書道・筆ペン習字・写経・絵画・絵手紙・塗り絵等を行い、余暇活動の充実や書字能力・集中力の向上をはかる |
| 陶芸 | 余暇活動の充実をはかるとともに、手指のリハビリを行う |
| カラオケ | 余暇活動の充実をはかる |
| PT／OT外出 | 外出時に見守りが必要な利用者に対し、理学療法士や作業療法士が車いす操作訓練や近辺外出訓練を行い、単独外出範囲拡大をはかる |
| 交通外出 | 公共交通機関（電車・バス）を利用した外出の練習・評価※単独での外出を想定し、障がい者手帳の提示や駅員への介助依頼も利用者が行う |
| 生活実習 | キッチンや浴室のある個室にて、単身やグループホームでの生活を想定した生活（買い物・調理・清掃・入浴等）とその評価を行う |
| 調理評価 | 調理動作の練習・評価を作業療法士が行う |
| 職能評価 | 軽作業と事務作業を通し、就労に必要な能力の評価を行う |
| 作業体験実習 | 厨房業者の協力を得て、食堂にて配膳・後片付けの実習と評価を行う |
| ピアサポート | 背髄損傷協会による相談支援 |
| 講座 | 健康管理や社会資源の利用について、啓発や情報提供を行う |
| 自己学習 | 自由時間に各自で設定した課題（計算ドリル、パソコン等）に取り組む※取り組む内容や量については、必要に応じて職員が支援 |

※プログラムの名称や内容は平成30年6月時点のものであり、今後変更となる可能性があります。